

## 2024 年度 経済学部 高大接続入試＜単位認定型＞の講評

### 「経世済民の学び」の講義概要

「経世済民の学び」は経済学部の1年生向けに、2017年度から開講している経済学の入門科目です。1単位の授業であり、1コマ90分の講義を8回行います。この科目では、経済学部の教員がそれぞれの専門領域に従って経済学の入門的な内容を講義しています。また、この講義では経済学部の1年生と高校生が一緒になって受講します。この講義の成績は高校生であっても中京大学の学生として在學生と同じ基準で判定を行います。具体的には、講義内容に基づく試験を実施し、その試験結果に基づいて上からS,A,B,C,Dの成績を決定しています。

### 講義

今年度の「経世済民の学び」では、ミクロ経済学・マクロ経済学という経済学の基礎となる理論科目、近年の経済学の分析に欠かせないツールとなっているゲーム理論の基礎、現実的な視点から経済現象を議論する地域経済学・労働経済学、ミクロ経済学の応用理論としての国際経済学、各種のデータから経済を読み解く経済データ分析、そして、歴史的・思想的観点から経済を見直す経済思想といった多様な経済分野の講義を提供しました。本講義を通じて、「経済学」がお金のやり取りだけを考える類の単純な学問ではないということを理解してもらえたのではないのでしょうか。特に、経済学には基礎的な理論があり、それを活用しながら経済現象を分析するという視座があることに気づいてもらったことでしょうか。たとえば、愛知県を対象に議論を展開した地域経済学においても、分析の際にはミクロ経済学や国際経済学で重要な比較優位の理論が紹介されていたと思います。こうした特徴を持つ経済学を学ぶには基礎的な理論の修得が欠かせません。そして、基礎理論を理解するためにはある程度の数学スキルや論理的思考が必要となります。そういうわけですから、入学後に困ることのないように、最低限、数学Ⅰの内容（特に、グラフと数式の対応関係）はしっかりと理解しておいてほしいところです。さらに、数学Ⅱの微分を理解していると経済学の理解は格段に上がるでしょう。

上記のように、経済学を学ぶ上で数学が重要となるのはもちろんのことなのですが、それは国語、日本史、世界史などの文系科目をおろそかにしてよいという意味ではありません。時に経済学は数式や図を駆使して得られた結論を言葉で再解釈してわかりやすく説明しようと試みることがあります。もちろん、わかりやすい説明をするにはある程度の教養や文章力が必要です。読み手にわかりやすく伝わる文章が書けるように、日頃から読書をするなど多くの文章に触れるようにしましょう。また、教養は文章の質を左右しますから、国語や社会科学目の学習もおろそかにすることなく、すべて自分の教養になるものと意識して勉強に励むようにしてください。

## 面接

第二次選考では面接試験により、「経世済民の学び」について理解度がどの程度であるか、経済学について学ぶ意識があるかどうかなどの確認を行いました。具体的には、経済学を学ぶ動機や社会の関心事項などを中心に、たとえば、「経済学はどのようなことを分析する学問だと思いますか」、「自身のその経済学の認識を前提とするとき、あなたは大学でどのような学びをし、その学びとともにどのような学生生活を送ろうと考えていますか」、「いま社会で起きている問題の中で関心があるものを、それがどういった問題であるか、そして、あなたがいま考えている解決策を教えてください」などの質問を面接でしました。志望動機の説明や面接官の質問に対する回答から、多くの受験生が経済学に高い関心を持っていることが感じ取れました。たとえば、「〇〇教授の〇〇という分野に関心を持ったので経済学部を志望しました」、「受講した講義のうちの〇〇先生が担当された〇〇という分野に興味があったからです」などの回答がありました。これらの回答をもらえたことは教員としてうれしい限りなのですが、残念なのは「その先」がないということなのです。関心を持ったというのであれば、その問題や分野が大雑把に言ってどのようなものであるかを調べる（無論、詳細は入学後に学ぶわけですから詳しくなる必要はありません）、あるいは、関心があることの学びが自分の将来にどう役立ちそうかを考えるなど、しっかりとした準備やより深い思考をしてきているだろうと面接官は当然期待します。しかし、そうした準備や思考をすることなく、単に「関心がある」というのでは面接官としては残念な気持ちになります。「その先」を想定して、今、あるいは、近い将来に何をすべきかを合理的に考え、実行するという一連の行動様式を身につけましょう。たとえば、「将来、銀行員になりたい」と思っているとしましょう。その場合、「銀行員として経済学を身に着けておくべきだと思うので経済学部を志望しました」というのにとどめるのは望ましくありません。そうではなく、将来なりたいと思っている銀行員とはどのような職務を担うものなのかについて調べ、それに必要となる知識や技能は何か、そうした知識・技能を身に着けるためにはどのような学びを大学でする必要があるのか（そのために、今できることは何か、どんな準備をしているか）、そして、どういった点でその知識・技能を修得するのに中京大学経済学部が適切であるといえるのか熟考した上で、自分オリジナルの志望動機を作り出すように心がけるようにしてください。